

令和5年度 幼保小連携推進園・校報告書

広島市立山本小学校・広島市立山本幼稚園

1 学校の課題

本校は、以前より、広島市教育委員会の就学前教育・保育推進事業に基づいて、幼保小連携・接続の取組を実施していたが、令和2・3年度は、幼保小連携推進事業の指定を受けて、研究協力園の山本幼稚園とともに「幼児期の学びと育ちを小学校の学びへとつなげるために」というテーマのもと、スタートカリキュラム・接続カリキュラムの実施と検証を進めた。令和4年度は、その成果を踏まえて、広島市の各校がこの取組を無理なく進めていけるような取組になるように研究と実践を続けた。しかし、人事異動や校内人事により小学校・幼稚園の双方とも、幼保小連携担当者やカリキュラムの実践者が変わった。さらに、昨年度までは、加配として派遣教諭が配置され、幼保小連携推進の中心として連携を進めてきたが、今年度は他の学校と同じく、加配がなく担任をしながら幼保小連携推進の役割を担った。1年間連携事業を進めていく中で、そのあり方や進め方などを見直す必要性を感じた。また、幼保小連携事業や接続・スタートカリキュラムは児童にとっても教員にとっても有益なものであったが、人が変わっても持続可能なものにしなければいけないという課題が明らかになった。

2 研究主題

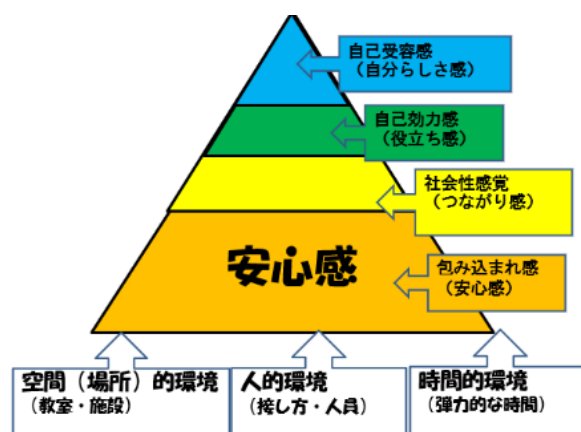
幼児期の学びと育ちを小学校の学びへとつなげるために
～安心感を土台に楽しんで表現しようとする子どもの育成をめざして～

3 取組内容

(1) スタートカリキュラムの実施・検証

・自己肯定感ピラミッド

入学第1週から小学校生活や学習の中で徐々に自己肯定感ピラミッドを積み上げていくことを意識して、児童が学校生活に慣れ、自立した生活をめざし、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう姿勢を引き出すことをねらって段階的な指導を行う。



・「空間」的環境構成

教室でお手玉やけん玉、曼荼羅塗り絵などを自由に使える。
休み時間を含め1日の流れを児童に提示する。

・「時間」的環境構成

幼児期の活動や体験に近い生活科を中心とした合科的・関連的な指導の実施。
児童の集中力に合わせ10～15分を意識した学習活動や内容の工夫。



・「人」とつながる機会

6年生によるお助けマン。自己紹介などの仲間づくりの活動。

小学校教員との出会いの場（ゲストティーチャー授業）

連携園の先生との触れ合いの場（ゲストティーチャー授業）



(2) 接続カリキュラムの実施・検証

幼児にとって初めての人、場所は不安に感じる要因が大きい。接続カリキュラムを実施する中で人（小学校の先生、1年生との交流）、場所（教室、校庭、体育館など）を実際に見て、関わり、触れたことで「知る」ことができ、親しみをもち「安心感」につながるように次のような取組を実施した。

- ・1年生との交流
- ・給食体験会（11月）
- ・お出かけ授業（音楽授業体験12月）
- ・小学校施設利用（校庭で遊ぶ、図書室利用 など）



(3) 幼児教育と小学校教育 相互理解のための取組

- ・小学校区幼保小連携推進委員会及び夏季合同研修
- ・幼小合同研修会の実施

スタートカリキュラム研修～スタートカリキュラムについて～
理論研修 佛圓弘修先生

「園児・児童の自尊感情を育む教師の援助と環境構成」

～スタートカリキュラムを作る際の自己肯定感ピラミッドについて

- ・小学校教員による幼稚園での保育参観及び協議会

例年、代表者が連携園に参観に行っていたが、担任は専科が入っている時くらいしか出られず、園側が年間を通して保育参観を受けてくれても行きにくいというこれまでの課題から、校内研修の扱いにして授業カットを行い、小学校教員全員が幼稚園で保育参観を行った。

- ・幼稚園教諭による小学校での授業参観

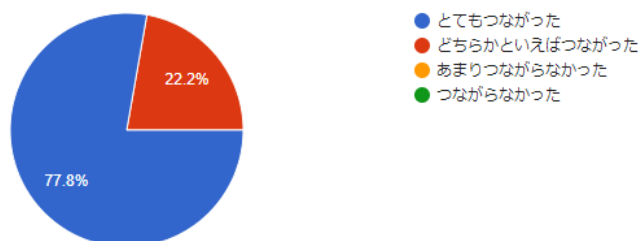
スタートカリキュラム終了時点と、小学校での校内研修の1年生の生活科授業公開に幼稚園教諭が訪問したり、会に参加したりした。



4 検証結果

○小学校職員へのアンケート

「幼稚園参観や夏休みに行った保育参観は、自身の幼児理解や幼児教育への理解につながった」という項目に、77.8%が「とてもつながった」と回答した。



また、「小学校へつなげられることが見つかった」という項目では100%の教職員が「見つかった」と回答した。具体的には、「友達との関わり合いが苦手な児童がいるときや、児童の環境が新しくなったときに、教員が子ども同士をつなげるよう声をかけたり関わったりしていかなければいけないと感じた。」「子どもへの接し方（目の高さに合わせ、子供の思いをまず聞いて受け止める）・活動したくなる場のくふう」「子ども達の興味・関心をベースに場面設定や活動を計画すること」など、1年生だけではなく他学年にもつながることを見つけていた。

○幼稚園 保護者アンケート

幼保小連携に関する保護者アンケートを実施した。未提出3名以外の保護者全員から「小学校訪問」「給食体験会」「お出かけ授業」「1年生との交流」が幼児の小学校への「安心感につながる」と回答をしている。また、小学校への期待については、「机やランドセルの購入」「兄姉と一緒に通学できる」「宿題ができる」「給食」「新しい環境への期待」などが多い。反対に不安については、同じ内容ではあるが、「給食」「友達関係」が多く挙げられていた。この不安に関しては、保護者の思いが大きいと思われる。また、4歳児の保護者アンケートからは、不安や期待に関して「分からない」「まだ考えていない」という回答が多かった。このことから、就学1年前が幼児、保護者共に関心が高くなるのがうかがえる。また、保護者が不安に思う頻度や事柄が多い幼児ほど、就学に対する不安が高いこともうかがえた。

5 研究成果

幼小連携は、小学校と幼稚園や保育園の教職員同士の連携、小学校児童と5歳児園児との交流、小学校教員と5歳児園児や園児の保護者との連携など、様々な連携の視点があるが、それらの積み重ねが教職員にとっても児童・園児にとっても、保護者にとっても有益である。それは、本校がこれまでに積み重ねてきた研究や実践からも明らかである。特にスタートカリキュラムについては、1年生の学級経営や生徒指導、特別支援の要素も濃く、1年生児童の入学期の登校不安を軽減することにつながっていると思われる。

一方で、研究として積み上げるために様々な取組をしているため、毎年続けるのは難しい取組や在り方、内容を変更していく必要がある取組があった。また、実際に連携を進めてきた小学校担当者のメンバーがあまり変わらなかったため、連携しやすいという面も大きかった。来年度以降は、担当者が変わっても継続可能な形での取組にすること、その年やその時の状況によって柔軟に幼小連携の取組ができるように考えていく必要がある。